

伝統医学は人類が自然の摂理と天然の恵みを巧みに利用し、疾病の予防、治療にあたってきた経験知の集積です。和漢医薬学総合研究所は、現代の先端科学技術を駆使して、和漢薬をはじめとする伝統医学や伝統薬物を科学的に研究し、東洋医薬学と西洋医薬学の融合を図り、新しい医薬学体系の構築と自然環境の保全を含めた全人的医療の確立に貢献することを使命として、①天然薬物資源の確保と保全、②和漢医薬学の基礎研究の推進と東西医薬学の融合、③漢方医学における診断治療体系の客観化と人材の育成、④伝統医薬学研究の中核的情報発信拠点の形成 の重点課題を設けて、研究を推進してきました。

近年、世界的に問題になっている高齢化の進行、多因子性疾患の増加、及び天然資源の枯渇に鑑み、本研究所は新たに重点研究プロジェクト（高齢者疾患対策研究、未病・予防先制医療研究及び資源開発研究）を定め、推進し、その成果を社会実装するための組織へと、令和2年4月に改組しました。研究開発部門では5分野（資源開発、病態制御、複雑系解析、未病、国際共同研究）を設置し、それらが連携して、臨床研究への橋渡しを目指した、新規メカニズムに基づく創薬基盤の構築などに関する基礎研究を行います。さらに、臨床応用、産官学連携の2部門では、本学附属病院や企業と協力して臨床試験や医薬品候補の発掘を推進します。加えて、漢方医学教育を実践できる教員の育成とその教育研修システムの確立を目的とした和漢医薬教育研修センターを立ち上げました。これらの3部門1センターが互いに連携し、東西医薬学の融合を基盤とした次世代型医療科学を創生して、健康長寿社会の形成に貢献することを目指します。

新組織体制での活動報告は次回の年報からになりますが、令和元年度はこれに関連して、重点研究課題に係る公募型共同研究を実施しました。この成果についても、本年報の後にまとめて収載しました。

現在、新型コロナウイルス感染症が世界的に広がり、早急な予防・治療薬の開発が求められています。漢方医学でバイブルとされる医学書の『傷寒論』は急性熱性病に効果があった処方を収載したとされており、現在でも流行性感冒等の初期に用いられる麻黄湯や葛根湯が初収載されました。また、病態の診断に基づいた漢方薬の投与も考えられ、中国で行われたように伝統医学からのアプローチも考えられます。感染症への対策を含め、健康長寿社会を形成するためには、先端の生命科学・自然科学や科学技術を駆使しながら伝統医薬学をも応用することを念頭に、和漢医薬学領域と異分野領域との融合型共同研究を行うことが重要です。この方針の下、教育研究を進める所存ですので、皆様方の一層のご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

令和2年4月1日

和漢医薬学総合研究所 所長 小松かつ子